

1 国語

*** 開始の合図があるまで、開いてはいけません ***

試験が始まるまで、下の〔注意すること〕を読んでおいてください。

〔注意すること〕

- 問題用紙のページは14ページまでです。 解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 試験時間は、50分です。
- 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。
そのほかの場合は、質問を受けません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴム です。

※問いに字数制限がある場合は、句読点等をふくみます。

□ 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

①おレイの言葉を述べる。

②よしあしをサバく。

③ゲンミツに言えばちがう。

④的を射ている。

問二 次の①～③の○○○は三字熟語です。横の文字をヒントにして完成させなさい。また、その意味を後のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

①	○ 春 十 ○ 支 天 ○
②	白 ○ ○ 方 通 行 ○ 要 人 物
③	分 ○ 器 海 ○ 旅 行 ○ 力

ア 内容がうすいこと。

イ 年若く経験の少ない男の人のこと。
問題にしないこと。

ウ ていねいに行くこと。

エ ごくわずかなへだたりのこと。

問三 次の①～③について、熟語の組み立てとして正しいものを、後のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ①花束 ②洗顔 ③未定

ア 上の字が主語、下の字が述語であるもの。

例) 「国立」：国が 立てる

イ 下の字が上の字の目的、対象を表すもの。

例) 「登山」：山に 登る 「写真」：真を 写す

ウ 上の字が下の字を詳しく説明しているもの。

例) 「青空」：青い 空

エ 上の字が下の字を打ち消しているもの。

例) 「無言」：言葉が 無い

二 次の文章は長くNHKで報道に関わってきた塚田氏の文章の一部である。後の問いに答えなさい。

日本でテレビ放送が始まったのが1953年ですので、すでに65年になります。人間で言えば65歳。年金生活が始まる高齢者の入口に差しかかっています。

テレビはいつまでも、みずみずしい存在であってほしいと私は思っています。調査のたびに、若者の「テレビ離れ」が指摘され、それとともにテレビをよく見る年齢層の高い世代からも「いまのテレビは見たいものがない」という声をよく聞きます。

スマートフォンふぁんごんの普及などで、知りたい情報や好きな動画をすぐに、いつでも、どこでも見られるようになった中で、テレビはこれからの時代に向けてどう進んでいったら、みなさんの期待にこたえ、役に立つことができるのでしょうか。

そして、ネット時代にテレビならではの力をさらに発揮していく道は何でしょうか。

いまテレビは、変革を迫られています。

若者のテレビ離れを少しでも食い止め、インターネットが優先という層に*1アップロードしよう、*2民放の無料公式*3ポータルサイト「TVer」では、テレビで放送した番組のインターネット配信が始まっています。また、見たい時にインターネットを使って、

*4オンデマンドで番組を見てもらおうと、NHKをはじめ各社の取り組みも進んでいます。「NHKオンデマンド」は2008年に始めて10年になります。

a、ネット企業と組んで、ネット独自の

番組配信を始めたテレビ局もあります。

このように、テレビ各局はインターネットを活用してどう未来を切り開いていくか、さまざまな取り組みを始めていますが、まだまだ答えは見えていません。

そうした中で、これからを考えるキーワードの一つが、「テレビ×*5ソーシャルメディア」ではないかと思えます。

「いまでも、ニュースや番組の中で*6ツイッターなどのソーシャルメディアを使っているのです、いまさらの話ではないか」という番組制作者の声が聞こえてきそうです。

b、私が考えているのはいわば「テレビの演出としての双方向性」としての活用ではなくて、視聴者一人一人が持っている情報に着目して、①テレビとソーシャルメディアのそれぞれの利点を、さらに融合させる必要があるのではないかとということです。

2011年3月に発生した東日本大震災、津波の被害、そして福島第一原子力発電所の事故と、*7未曾有の大災害に直面して、情報をどう入手するか、人々のメディアの利用状況も変わりました。

東日本大震災では、地震直後に情報収集するためのツールとしてツイッターが使われ、1分間に1200件以上の*8ツイートが投稿されるなど、利用が爆発的に広がりました。

被災地のメディア利用は、地震当日は停電の影響もあり、ラジオ、*9ワンセグ、テレビの順で使われており、いずれも放送系メディアで情報を得る人が多く、地震から3日目以降になってインターネットで*10ライブライン情報などを見ると、人が増えてきたという結果が、NHKが行ったウェブ調査でわかりました。

テレビやラジオの利点として、多くの人々に同時に同じ情報が届く

ことと、正確で信頼性の高い情報が得られることがあげられます。一方で、災害が広範囲に及び情報が*11 錯綜する中で、取材体制も放送時間も限られているため、地域のきめ細かな被害の状況やライブライ情報などまでは、なかなか伝えきれないという課題があります。ニュースや情報を伝える報道、編成の流れは放送局の判断で行われるため、いつでも自分の知りたいことを見たり検索したりできるわけではありません。

インターネットを通じたソーシャルメディアは、ツイッターなどで救助を求めることもできますし、一人一人がいる場所の情報を、写真や動画を使って発信することができます。同時に、知りたい地域のことや知りたいことを検索してみるなど、一人一人のニーズにこたえることができます。ただし、誰もが発信できるため、*12 デマ情報や*13 虚偽の情報が含まれていることがあり、その誤った情報が広く拡散してしまう危険性もあります。

② テレビとソーシャルメディア、両方の特性を生かせないか。NHKでは、東日本大震災を機に、「ソルト」というチームを立ち上げました。「ソルト(SOLT)」とは「ソーシャル・リスニング・チーム」の英語の頭文字をもとにした名前です。

大震災ではツイッターなどのソーシャルメディアが有力な情報源となりました。救助を求めている情報、取材に入れていない地域の被害状況など、こうした情報をデスクとスタッフが収集・分析し、必要な情報を選び出して、放送につなげていきます。もちろん、情報が本当かどうか、「ウラ」を取って、確認した上で放送するわけです。

事件や事故、災害などが起こっているとツイッターの教が増えていきます。現場で何かが起きているのではないかと考え、近くの警察や消

防署などに確認取材をして、速報にも役立てています。

さらに視聴者のみなさんから、スマートフォン等で撮ってもらった現場の写真や動画を寄せていただいてニュースや速報に役立てています。最近、大雨による浸水や雷、ヒヨウ、竜巻など気象変動が激しくなっています。テレビで「提供 視聴者」と表示された映像が多くなっていると感じていませんか。

人々が必要としている情報を、タイムリーに、正確に、信頼性を持って、一人一人にどう伝えるか、どう伝わるか、放送とソーシャルメディア全体をトータルに考えていく時代に入っていると思います。

(塚田祐之『その情報、本当ですか?』による／一部改変)

〈注〉

- *1 アプローチ：対象や目標に近づく（迫る）こと。接近。
- 2 民放：民間が運営する放送。
- 3 ポータルサイト：ほしい情報を閲覧・確認したい時に最初にアクセスするサイトのこと。
- 4 オンデマンド：視聴者がいつでも見られるようにした動画配信形式のこと。
- 5 ソーシャルメディア：誰もが参加でき、互いに情報交換できるもの。
- 6 ツイッター：短文や画像、動画をネット上で広く社会とやりとり可能なサービスの一つ。現在の呼称は「X」。
- 7 未曾有：これまで一度たりとも起きなかったような、極めてまれな事態。
- 8 ツイート：ツイッターに短文や画像・動画を投稿する行為。またはその投稿そのもの。
- 9 ワンセグ：地上デジタル放送で行われる、携帯電話等に向けたテレビ放送サービス。
- 10 ライフライン：都市生活の維持に必要な、電気・水道・ガス・通信・輸送など。
- 11 錯綜：複雑に入り交じること。
- 12 デマ：いかげんな噂話。
- 13 虚偽：うそいつわり。

問一

エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア では イ しかし ウ ただし エ さらに

問二 ―― 線部①「テレビとソーシャルメディアのそれぞれの利点

を、さらに融合させる」について、三人の生徒が次のような話し合いを行いました。A～Eの指示にしたがい、三人の話し合いの空らん（1）～（6）を埋めなさい。

桜子さん	最初に筆者がテレビとソーシャルメディアそれぞれの利点をどう考えているのか整理しましょうよ。
松子さん	まずテレビの利点は（1）と（2）だと筆者は述べているわね。
梅子さん	ただし、（3）といった欠点があるとも言っているわ。
桜子さん	それに対してソーシャルメディアの利点は、まとめていうと（4）な情報収集・情報提供ができるということよね。
松子さん	それってどういう情報かしら？
梅子さん	例えば災害時の、（5）といった情報などだと思うわ。
桜子さん	でもソーシャルメディアにも（6）といった欠点があるのよね。
松子さん	その欠点は（1）のテレビの利点と対照的ね。
梅子さん	そうね。こうしてみるとテレビの欠点はソーシャルメディアがカバーできそうだし、ソーシャルメディアの欠点はテレビがカバーできそうね。

A（1）、（2）に入る内容を、それぞれ二十字以内で本文中から探し、はじめと終わりの五字をぬき出しなさい。その際、（1）に入れる内容は、後で（6）のソーシャルメディアの欠点と対照的だと言われていることをふまえて答えましょう。

B（3）に入れるのに適切な内容を、十字以上、十五字以内で答えなさい。

C（4）に入る語として適切なものを、次のア～エから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 個別的 イ 全体的 ウ 具体的 エ 現実的

D（5）の例として適切でないものを、次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 私のいる避難所では食料が不足している。

イ 県全域で現在百五十人の避難者がいる。

ウ 市民病院は台風で停電している。

エ 隣の市で昨夜一時間に五十ミリ以上の大雨が降った。

オ 祖母の家近くの川の堤防が決壊した。

E（6）に入れるのに適切な内容を、本文の表現を利用しながら、十字以上、二十字以内で、自分でまとめて答えなさい。

問三 ― 線部② 「テレビとソーシャルメディア、両方の特性を生かせないか」と考えた筆者たちは「両方の特性」を生かすために「ソルト」を立ち上げたとあります。その「ソルト」の活動に関して後の問いに答えなさい。

(1) 「ソルト」は、情報をどのように集めるのですか。次の書き出しに続けて、四十字以上、五十五字以内で答えなさい。

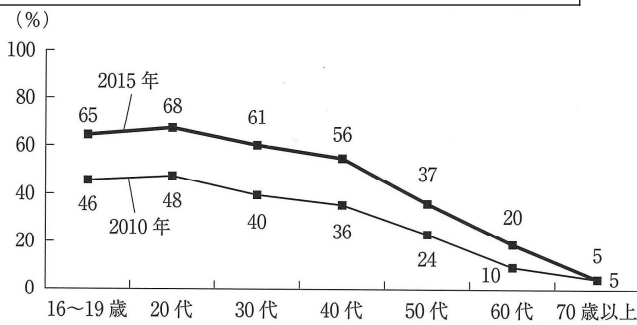
事件や事故、災害時に（四十字以上、五十五字以内）。

(2) 「ソルト」は、集めた情報を報道に生かすためにどのような行動を取りましたか。それを説明した次の文の空らん（1）

（2）に適切な二字熟語をぬき出して答えなさい。

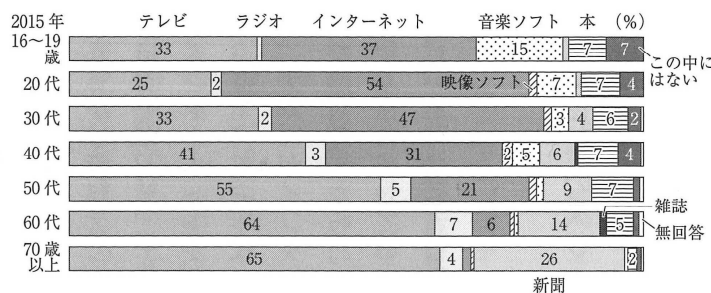
集めた情報を（1）し、せんたく選択した上で（2）して放送した。

X インターネットへの「毎日」せつしよく接触（年層別）



(出典)NHK 放送文化研究所「日本人とテレビ 2015」

Y 一番目に欠かせないメディア（年層別）



図表は2%以上の値を表示

(出典)NHK 放送文化研究所「日本人とテレビ 2015」

問四 ― 線部「インターネットが優先という層」とあるが、この層がテレビよりもインターネットを優先していることを説明できるのは次のXとYの資料のどちらですか。XかYの記号で答え、それが適していると考えた理由を五十字以内で述べなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学生の「惇」は、父の「正作」と、七夕飾りに使う竹を採るために「青煙峠」に登る。竹を採り終えた二人は、山の木こり小屋の老人にあいさつし、滝の岩場辺りで昼食をとることにした。弁当を食べ終わった後、「正作」が谷側の岩の下に何かを見つけた様子で「惇」を残して降りていった。残された「惇」は何かが落ちていく音と人の叫び声を聞く。「惇」が谷側にかげより、下をのぞくと、「正作」が、岩間から生えている細い松の木に右手一本でつかまり、宙づりになっていた。

「父ちゃん。待つとれ。そこへ行くから」

「来るんじゃない」

① 今まで見たこともない鬼のような眼をして正作は惇を睨みつけた。正作の方へ寄せられた惇の身体が一瞬射たれたように硬くなった。実際、惇の岩からは正作までの路を求めめることは子供の力では不可能であった。

正作はしばらく動くのを止めてじっとしていた。惇は助ける方法をXに考えようとした。紐ひとつ見つかるところではない。すると急に水音が惇を追い立てるように忙しく音を立てはじめた。

正作は静かに左手を上げると右手で幹を引き寄せるようにして膝を曲げて身体を持ち上げた。メリツメリツと今度は本当に根元から折れるような軋みが聞えた。

しかし左手は幹に触れなかった。

動作が止まった時、惇は正作が右手を離してしまおうのではないかと感じた。

「惇……人を、呼んで……来い。さっきの……木こり小屋の爺さんだ。すぐに行け」

喉の奥から絞り出したような低い声だ。

「わかった。すぐ、呼んで来る。待つとれ。すぐ呼んで来る。待つとれ」

惇は正作の目をもう一度見ると、滑るように岩を駆け降りた。勢い余ってそのまませせらぎの中に腰から落ちた。たちまち上着までずぶ濡れになった。一枚岩に上ると見えない正作に向けて、

「父ちゃん。待つとれ。すぐ呼んで来るぞ、待つとれ」

返事はない。それが惇を急ぎ立てた。

一枚岩を真直ぐに降りると、来たはずの道はなく草と岩ばかりの場所だった。惇は崖の赤土を探した。見つからない。一枚岩を振り返って木こり小屋の方角を思い出そうとした。よく見ると覚えのある*1羊歯が見えた。羊歯に向って小岩を踏み越えて走り出した。道はすぐに見つかった。惇はもう後を振り返らず崖沿いの道を夢中で走った。② 来た時はさほど長い道程ではないと思っていた道はいくら

走っても山道に出なかった。惇はまちがった道を走っているのではないだろうかと思った。正作の背中ばかりを頼りに歩いてきた道なのだから途中で違った方向に進んだのかも知れない。惇はちらつと青煙の頂きを見た。そして走りながら崖道を振り向くと、確かに来た道だと思った。すると頭の中に必死でぶら下がる正作の姿が浮んだ。揺れながらたわむ細い松の木を思うと③ 肩に当る高い草を斬る

ように腕を振り走り続けた。

途中、惇は二度ばかり地を這う根に足を取られて*2 もんどり打つように倒れた。ピシヤリと手の平が地面を鳴らすと、畜生、と叫んで起き上って走り続けた。谷底の④牙をむいて不気味に正作を待っている黒い岩が後から追い駆けて来た。水の入った運動靴がユウキユウと泣くように声を出す。もう松の木は折れてしまったのではないだろうか。そんなことはない。正作はそんな人ではないのだ。走りながら頭の中を巡る怖い光景を打ち消しながら、待つとれ、待つとれ、頑張れ、と声を上げた。

やがて道は下り坂になり前方からせせらぎの音が聞こえた。もうすぐ橋があるはずだ。橋を渡れば小屋はもう近い。惇は足の裏全体でバタバタと坂道を右へ折れながら下って行った。

橋は来た時よりも小さく見えた。惇は橋を渡ろうと板に足をかけた。

すると橋の中央に縄のようなものが見えた。動いている。それはこれまでに見たこともないほど大きな*3 青大将だった。二枚の板を遮る格好で頭を惇の方向に向けて静かに身体を這わしている。惇は立ち止まって蛇を見た。蛇は、この橋を渡さないぞ、と惇を睨みつけて頭を動かさない。⑤惇は足が震えるのを感じた。正作の顔が浮んだ。何か、棒切れを探そうとしたが、辺りに枝も石もない。ズボンを握りしめると濡れたポケットに*4 晴のくれたキャラメルの箱が触った。まだ封を切っていないキャラメルの箱を蛇に向って投げつけた。

が、箱は蛇を避けて空を切って河に落ちて行った。青大将は動く

様子も見せず、ますます惇を見据えている。⑥誰かが後方で笑っている気がした。青煙の生き物全てが惇に挑みかかっている。こんなことをしていたら正作は死んでしまう。正作は必死で待っているに違いない。

「どけー、どけー。どけー」

惇は歯を噛みしめ大声を出して蛇に向って走り出した。橋は小さく揺れた。もう蛇が足首に巻き付いても構わないと思った。左の足に何かが張り付いている気がしたが下を見ずに橋を駆け抜けて雑木林の上り坂を木こり小屋に向った。

小屋が見えると惇は大声を上げて老人を呼んだ。⑦急に涙があふれて耳や頬に走る度に飛んで行った。

「おじさん。おじさん」

小屋に着いたが、先刻そこで薪を束ねていた老人の姿が見えない。小屋の戸を開けると中は暗くて何も分らない。

「おじさん。おじさん」

惇はどうしたらいいのか分からなくなった。老人は引き揚げてしまったのだろうか。見ると束ねた薪の束の上に煙草と布包みがある。惇は声を上げて小屋の四方で呼んでみた。しかし惇の叫ぶ声だけが薄暗い林の中に響いて返って来るだけだ。それでも何度も呼び続けた。正作はまだ右手を離さず松の木にいたのであるだろうか。いる。必ずいる。早くしなければ。正作を思うと涙がまた流れはじめた。声がかすれてしまう。

惇は肩を震わせて辺りの音を偵った。

すると今惇の走って来た川の方から人の歩く気配がした。老人の

姿が映った。

「おじさーん。大変だ。おじさーん。父ちゃんが岩から落ちた。早く助けてくれ」

老人は惇の様子に驚いて、

「どうした……」

「父ちゃんが、父ちゃんが落ちた」

「どうしたのじゃ。ゆっくり話せ、父ちゃんがどうした」

「父ちゃんが滝の岩から落ちた。細い木にぶら下がって片手で掴まっとなる。細いから、木が折れそうじゃ。おじさんと呼んどの。早く、早く、死んでしまおう」

老人は滝の方角を見て⑧小屋へ走ったかと思うと肩から縄を掛けて現れるや、惇の手を取り川の方へ下りはじめた。老人は走り出すと驚くほど早かった。背は曲っていたが、グイグイと惇を引いて駆けた。橋を渡って崖の道に入ると、

「大きな岩の下だな、滝の上の。丸い平らな岩の下だな、わしは先に行く。坊は後から来い」

老人は惇の手を放すと、どんどん遠ざかって行った。惇は遅れまあと後姿を追ったが左へ曲った崖沿いの道で老人の姿は消えてしまった。

正作はまだ無事でいるだろうか。一枚岩を出てからも随分と長い時間が過ぎた気がする。それが一時間なのか、三十分なのか惇はわからなかった。正作がもし谷底に落ちて死んでしまったらそれは自分のせいだ。自分が早く人を呼んで来なかったからだ。蛇を恐れてうろろうろしていた臆病な自分が悪いのだ。冷たい谷底の岩の上に

俯せたまま人形のように滝水に濡れている正作の姿が浮んだ。

1。大丈夫だ正作は生きている。2。3。

「お願いだから助けて下さい」

惇は誰に言うともなく叫んでいた。

A

走りながら何度も繰り返して助けを乞い続けた。左手にそびえる青煙の頂きに、正作を死なせないで下さいと願った。

岩場に近づけば近づくほど惇の中に非情な深緑色の山の神様が襲って来て、背中をドン、ドンと叩いた。崖の赤土が切れて岩場が見えると、惇は不安に胸が詰まって息苦しくなった。

それでも足を止めないで一枚岩の下に着くと声を上げて正作を呼ぼうとした。でも黙って岩を周り、一枚岩の上へ駆け登った。

誰もいない。

惇は声をYず耳をYたが辺りには何も聞こえなかった。

急に膝と肩がぶるぶると震えはじめた。耳元が熱くなり口の中が乾いた。人の気配がしない。握りしめた手が汗ばんで指の間を濡らしていた。

すると左の下の岩の辺りから笑い声がした。笑い声は小さく聞こえて途絶えたかと思うと前より大きな聞き覚えのある笑い声に変わった。正作の声だ。

⑨「父ちゃーん」

惇は正作の名前を呼びながら声の方向へ走った。見下ろすと向いの岩場との狭間、流れが落ちる場所にある岩の上に、正作は笑いな

がら老人と座っていた。

(伊集院静『皐月』による／一部改変)

〈注〉

- * 1 羊齒：花の咲かない植物の一種。
- 2 もんどり打つ：宙返りする。
- 3 青大将：蛇の一種。長さは二メートル近くにもなる。
- 4 晴：悼の母親の名前。

問一 — 線部①「今まで見たこともない鬼のような眼」とありますが、なぜ「正作」はこのような「眼」をしたのか、その理由を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 油断していたところで足をすべらせてしまい、なんとか助かろうとあせっているから。
- イ 竹の採集を終えてほっとしていたのにいきなり災難にあつてしまい、おどろいているから。
- ウ 危機的な状況であるのに近くには無力な悼しかいないということにいらだっているから。
- エ 思わずこちらに近づこうとする悼を絶対に危ない目に合わせたくないと思っているから。

問二 Xに入る四字熟語を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 単刀直入
- イ 半信半疑
- ウ 一生懸命
- エ 用意周到

問三 — 線部②「来た時はさほど長い道程ではないと思っていた」

とありますが、なぜ「惇」はこのように思っていたのか、その理由を解答らんに合う形で、本文中から十七字で抜き出さない。

問四 — 線部③「肩に当る高い草を斬るように腕を振り走り続けた」

について、この時の「惇」の様子を説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 肩の高さまで伸びきった草をじゃまだと感じ、草に怒りをぶつけながら走っている。

イ 正作なら自力でなんとかはい上がってくると信じており、安心して勢いよく走っている。

ウ 正作から低い声で命令されたので、絶対に従わなければいけないと思って、必死で走っている。

エ 正作が谷へ落ちるかもしれないと不安に感じ、正作を助けるために全力で走っている。

問五 — 線部④「牙をむいて不気味に正作を待っている黒い岩が後

から追い駆けて来た」とありますが、この部分に用いられている表現方法を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 体言止め ウ 反復法 エ 倒置法

問六 — 線部⑤「惇は足が震えるのを感じた」とありますが、この

時の「惇」の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 見たこともない大きさの青大将に出会えて感動している。

イ 青大将に見すえられて動けないほどの恐怖を感じている。

ウ 自分の行く手をふさぐ青大将をうっとうしく感じている。

エ 目の前の青大将を打ちのめそうと闘志を燃やしている。

問七 — 線部⑥「誰か」の指すものを、本文中から五字以上、十字以内でぬき出して答えなさい。

問八 — 線部⑦「急に涙があふれて」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大きな青大将がいてもなんとか橋を渡りきって、木こり小屋までたどり着けたことにふと喜びを感じたから。
- イ 小屋の手前にある橋を渡るのに手間取ったために、もう父を助けられない、と急に大きな悲しみにおそわれたから。
- ウ 木こり小屋に着けば、老人に会えると思ったのに、老人がいないのでどうしたらよいかわからなくなったから。
- エ 走ってくる途中に感じていた緊張が解けて、正作を老人に助けてもらいたいという感情が一気に大きくなったから。

問九 — 線部⑧「小屋へ走った」とありますが、老人は、何のためかこのような行動をとったのか、二十字以上、二十五字以内で説明しなさい。

問十 1 3 には、それぞれ、次のア～ウの一文が入る。それぞれに当てはまるものを記号で答えなさい。

- ア しかし紅い顔は笑うのを急に止めると硬直して松の幹に必死の形相で掴まっている表情に変わった
- イ 顔を真赤に膨らませて笑っている正作が現れた
- ウ 惛は走りながら首を振ってその幻を打ち消した

問十一 Y には同じ二字の言葉が入ります。その二字を答えなさい。

問十二 — 線部⑨ 「父ちゃん」と呼んだ時の「惇」の気持ちは

どのような気持ちですか。十五字以上、二十字以内で答えなさい。

問十三 本文中の——線部 a 「メリツメリツ」、b 「キュウキュウ」、

c 「グイグイ」、d 「ぶるぶる」について説明した次のア～エの中で、適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア a 「メリツメリツ」は正作の体重のせいで細い松の幹が折れそうになっている様子を表している。

イ b 「キュウキュウ」は運動靴に川の水が入ってしまい、俥が思うように走ることができない様子を表している。

ウ c 「グイグイ」は木こり小屋の老人が、外見に反して意外にも力強い動きで正作の救出に向かう様子を表している。

エ d 「ぶるぶる」は、ずぶぬれになりながら走ってきた俥の体が冷え切って、急にふるえ出す様子を表している。

問十四 次の□で囲まれたBの部分は、正作が助かった後に、木

こり小屋の老人から、岩場を降りていった理由を聞かれて、正作が答える場面です。

本文中の□で囲まれたAの部分と、このBの部分を読んで、「惇」と「正作」に共通する「山」への思いについて、先生と生徒たちが話し合いました。以下の生徒たちのア〜エの意見の中で、適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

B 「しかし何でまた、あそこに」

「いやあ、ちよつと……」

言いかけて自嘲するように左手で松の木の上の方を指さした。

「あれをちよつと摘んで帰ってやろうと、*5色気を出したんで、山が怒ったんでしょ」

山が怒ったんでしょ

見ると松の木の上の岩場に紅紫色の花が咲いていた。

「おお、あんなどころに*6皐月じゃのう」

老人は風に揺れる皐月の花をじつと眺めている。

「*7家の者が花好きで……いやあ、変な色気を出すと山に叱られる」

〈注〉

*5 色気…何かを手に入れようとする気持ち

6 皐月…ツツジ科の花。

7 家の者…正作の妻で、惇の母親である、晴のこと。

先生

Aの部分は「惇」がお父さんの「正作」が助かることを強く願う場面です。また、Bの部分では、「正作」が、自分が危ない目にあつた原因について話していますね。この二つの場面に共通する「山」への思いについて、考えてみて下さい。

梅子さん

ア 私は、「惇」も、「正作」も、山は危険な場所が多いから気をつけないといけないと思つている、というところが共通していると思つています。

桜子さん

イ そうでしょうか。「正作」も、「惇」も、人間は山にはかなわない、と思つている、というところが共通しているのではないのでしょうか。

百合子さん

ウ 「惇」は、山は大きな力をもつた存在だ、ということを感じていて、それは「正作」も同じだと思つています。

桃子さん

エ 「正作」は、山を単なる自然と見ていませんね。「惇」も、まるで、山が意思をもつているように感じています。

先生

Aの場面からもBの場面からも、二人の「山」についての思いが読み取れましたね。

